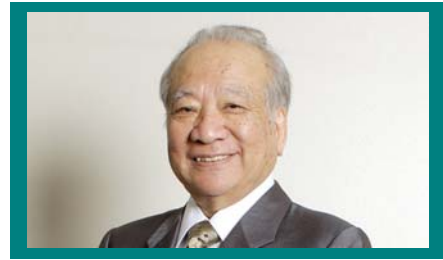


21世紀の日本のかたち（14）

--- 群島国家の国づくり - 平成20年度国土政策セミナーに参加して ---



戸沼幸市
〈(財)日本開発構想研究所 理事長〉

1. はじめに

平成21年1月15日、国土交通省主催の「国土政策セミナー」に参加する機会を得ました。主題は「国と地方の協働による国土・地域計画」でした。

本セミナーは平成3年度から東京で毎年開催され、私どもの研究所がお手伝いをはじめてから今回が4度目です。私自身、多くの知見を得ることができました。

今回は東アジアの国々から政策担当者を招いて、我が国の国土計画をも紹介しつつ、参加各国の国づくりについての最新の報告と情報交換を行い、21世紀の東アジアの将来像をそれぞれの立場から模索しようというものです。

今回の参加国は、フィリピン、インドネシア、マレーシア、ベトナム、タイ、日本の6か国でしたが、前回、前々回には中国も参加しました。1日かけたセミナーの熱心な発表と討論を拝聴しつつ感じたことは、それぞれに、その地理、歴史が異なるほどに国づくり地域づくりに固有の困難な課題を抱えていることと同時に、21世紀の東アジアの生活圏、居住圏として、環境問題など運命共同体的に多くの共通の課題があるということでした。

2. 海から見た東アジアの構図

一 逆転させてみた地図

セミナー資料として配付された北を上にした通常の東アジアの地図では、日本人としてか、右上北方に環日本海の大陸（中国・ロシア）・朝鮮半島・日本列島のひとかたまりがまず目につきます。ついで、北から南へアジア大陸（インド・中国）の巨大な塊がインドシナ半島を抱えて海に向かって大きく張り出してきており、今回のセミナー参加の群島国家群を東南に押しやっているという構図に見えます。

この地図を見ながら、参加各国の地理、地形を理解しようと国境線を辿っていたのですが、この領域の島の多いことに改めて驚かされます。インドネシアで1万7,000余の島々、フィリピンは7,000余の島々、日本も4,000を超す島々からなる国です。オーストラリアを島に見立てるかについては見解が分かれるところでしょう。

今回の報告に重ねて、かつて私自身、教師時代、30年、20年、10年前に留学生に案内してもらって訪れた国々、島々の熱帯雨林の色鮮やかな鳥や植物など多様な生物とともに生きている人々の暮らしをあれこれと想像しました。

参加者の報告を聴きながら、東南アジアの地域

から関係領域を見渡すとどのようになるかと、地図の南北を逆さにして眺めてみて、改めて気づかされたことがあります。まず、日本の見え方がまるで違ってしまいます。日本列島は紛れもなく東南アジアの広大な太平洋に浮かぶ群島国家群の一翼、群体の中にあり、アジア大陸（中国）と対峙するという姿の構図が浮かび上がります。

インドネシア、フィリピン、これを北下させて、台湾、日本列島—沖縄・九州・四国・本州・北海道とたどり、更に北へサハリン（旧樺太）、国後・択捉などの北方四島、そして千島列島への長大な島々の連なりが鮮やかに理解されます。日本列島は紛れもなく海をベースにした海洋アジア群島の一員であるのです。

私どもが日本、日本列島を理解する場合、日本海を取り巻く大陸と朝鮮半島の位置関係から、特に漢字文化圏として理解しがちです。

漢字文化圏である日本の成り立ちと未来について考えてゆくことは大事なことに違いありませんが、改めて西太平洋群島国家の構成国としての見方を加えるべき時に来ていると感じます。

地球における人間居住はあくまでも陸地ですが、当然のことながら海あつての陸であり、群島国家はこの点で海と直接の関わりをもって経営されており、東アジア群島国家群を共通の海洋文明圏として捉えることができます。日本、台湾、フィリピン、インドネシアを連続体として見ることもできましょう。

今回のセミナー参加国のマレーシア、ベトナム、タイは大陸が海洋にゲンコツ状に迫り出したインドシナ半島（インドとシナの間にある半島）の塊の中にあります。

逆さまにした地図で見ると、まずマレーシアは左手のゲンコツの親指の先から突然変異的に膨らんだ形で突起し、そのくびれたところで仮に切り

離せば、立派な独立島です。インドネシアのスマトラ島に寄り添う親戚といったところでしょう。

マレーシアの南端には真珠の様な小さな経済大国シンガポールが付きます。

ベトナムもタイも海との接地面を最大化するように長い海岸線をもっている点で、海洋国家としての仲間に入れてもよいでしょう。インドシナ半島の諸国は内陸で複雑な国境線をもっていますが、これについては国家興亡の歴史が感じられます。

島国とは別に、半島は独特な歴史をもっており、朝鮮半島では今も南北分断（韓国、北朝鮮）のままであり、21世紀の大きな政治課題です。

巨大人口国の中国大陸も海側から見れば全く長大な海岸線を持ち、このラインに主要な居住地、都市、大都市を築いていることに改めて気づかれます。

このように見てくると、地球の7割は海であり、3割の陸地の大部分もまた長大な海岸線を持ち、そこに主要な居住地を築いていることを改めて思い知らされます。地球文明とは海の文明、母なる海に育てられている文明ということなのでしょう。

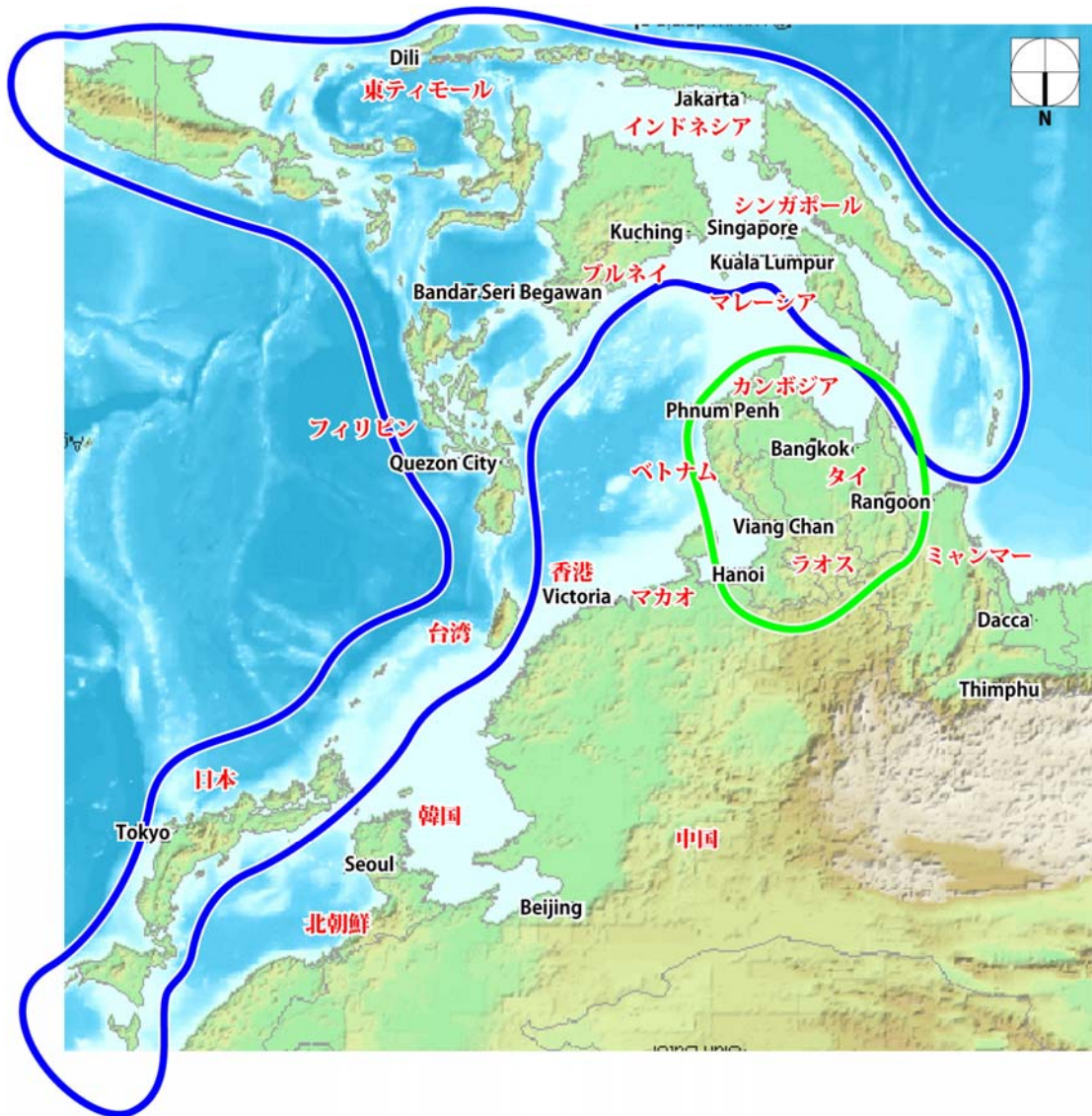
3. 東アジア諸国の多様性と国づくりの課題

逆にした東アジアの地図はともかく、セミナーでは参加諸国の現状と課題についての率直な討論と意見交換が続きました。

東アジア海洋諸国は実に多様であり、また「国と地方の協働による国土・地域計画」についても、どの一国も地理地形の複雑さに加え、民族、言語、宗教、政治、社会状況、人口動態と実に多様な課題と見方があることが浮き彫りにされました。

国づくり、地域づくりの課題とは簡単に言えば、時代情況に合わせて国民の生存と生活を守り、これを成長的に安定化（持続的発展）させるための政策をいかにつくり、それを実行するかにあります。この共通目標に対して、アジア的多様性は脆

逆さに見た地図



弱性を含み、そこに対応の難しさがあるとも言えます。近代化とは画一化でもあるからです。多様性をどのように計画の中に組み込むかは大きな課題です。

特に環境問題、地球温暖化問題については深刻です。なにしろ、もし30cm 海水面が上昇すると、インドネシアでは2,000もの島々が消失するというのです。海岸域を主要な居住地とする東アジアの大問題です。全体討論でも「グリーングロース」が主題となり、これに関連し、参加各国の懸念な森林保全、マレーシアでは国土の44%を保全する、

インドネシアでは河川流域の森林を30%残すなど、環境対策への真剣な取り組みが報告されました。

環境問題と関連し、東アジアは自然災害に深刻な問題をもっています。西太平洋群島国家群はそのまま太平洋火山帯であり、地震が絶えません。また、東南アジアは丸ごとモンスーン地帯であり、これへの対応は各国の大きな仕事です。昨年5月のミャンマー南西部を直撃した台風による大洪水災害は記憶に生々しいところです。環境問題、災害問題は日本を含む東アジア全体としてのスケールの大きい取り組みが求められています。

人口動態への対応も東アジアの居住を考える場合の基本的な課題です。日本と参加諸国の大きな違いは、日本が急速な人口減少と少子高齢化に向かっているのに対して、中国も含め、アジア、東アジア諸国では人口が急増していることです。東アジア、東南アジアにおける急速な人口増は、現状において失業や貧困の原因ともなり、民生を不安定にしています。

人口が急増した戦後の日本の場合には、人口増を経済成長に結びつけ、農村の都市化、都市の大都市化で成長する人口を吸収してこれを切り抜きましたが、途上各国はちょうどこの問題に突き当たっています。地域に広がる農村をどうするか、都市特に首都への人口集中への対策が、国の計画の基本課題の一つとなっているようです。農村部と都市部の地域間の格差問題に日本とは別の意味で直面しています。人口増を経済成長に結びつけるためのプロジェクトの報告もなされました。

今回のセミナーでは議論になりませんでした。国際居住、国際間の人口移動、移民問題は大きなテーマに違いありません。急速な人口減少に向かっている日本は、東アジアからの人口移動に21世紀の前半、しっかりと対応すべきと考えます。

途上国の国づくりに絡んで、先進国の経済援助

や投資についても語られましたが、人的資源の確保、人材育成が急務であることが各国共通の大きな話題でした。

これに関連しては、東アジア型の様々なかたちでのネットワークの構築がさらに大きく模索されることでしょう。21世紀の交通や情報のネットワークの発展によって、国相互に、あるいは国を越えた都市と都市、地域と地域の結び合わせが活発化して、経済はもとより、知と技術の交流、人材交流の結節空間が生まれることが期待されます。

今回のセミナーもその結び目の一つということでしょう。

地球上、ひとかたまりの人間居住圏として、改めて東アジアという地球地域を見るときに、アメリカやヨーロッパと異なるグリーングロースの海洋文明の姿がぼんやりと浮かんだことでした。これは20世紀型の機械文明と異なる、21世紀の環境重視の新文明に違いありません。現在策定中の日本の国土形成計画も、このことに大きく関わってくるはずですが。

セミナーの後のささやかな懇親会では、手を取り合い、手を合わせつつ友情を交わし、再会を約したことでした。

(2009年02月15日)

東南アジア・東アジアの人口動向（2010年以降は推計）

(万人)

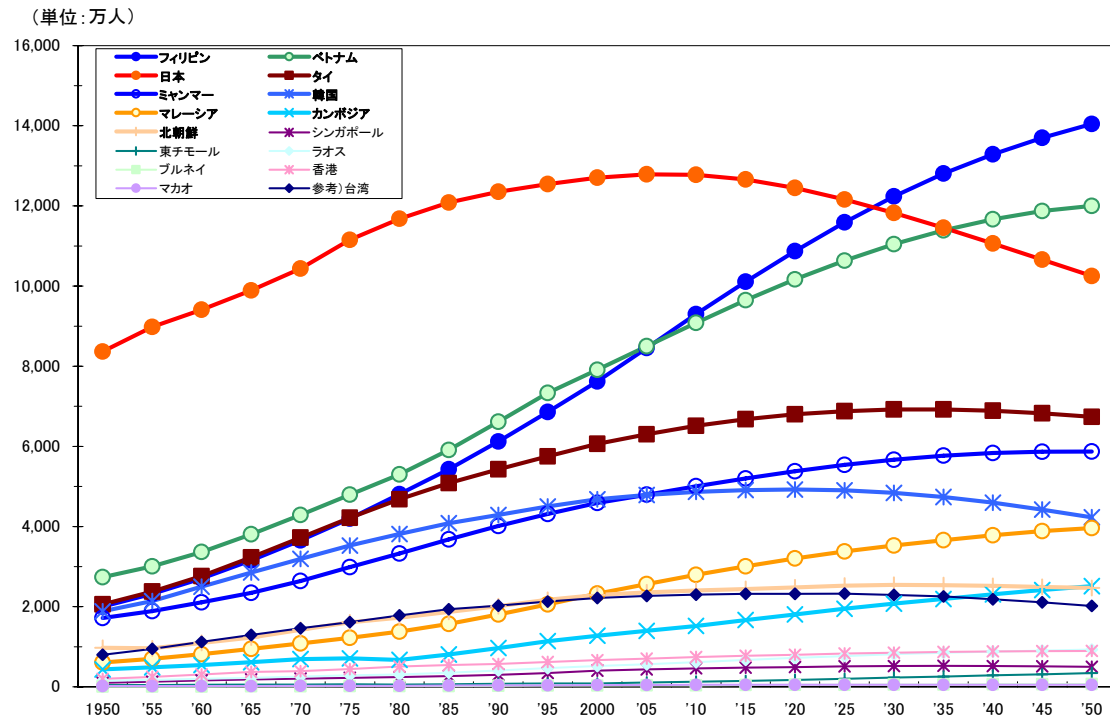
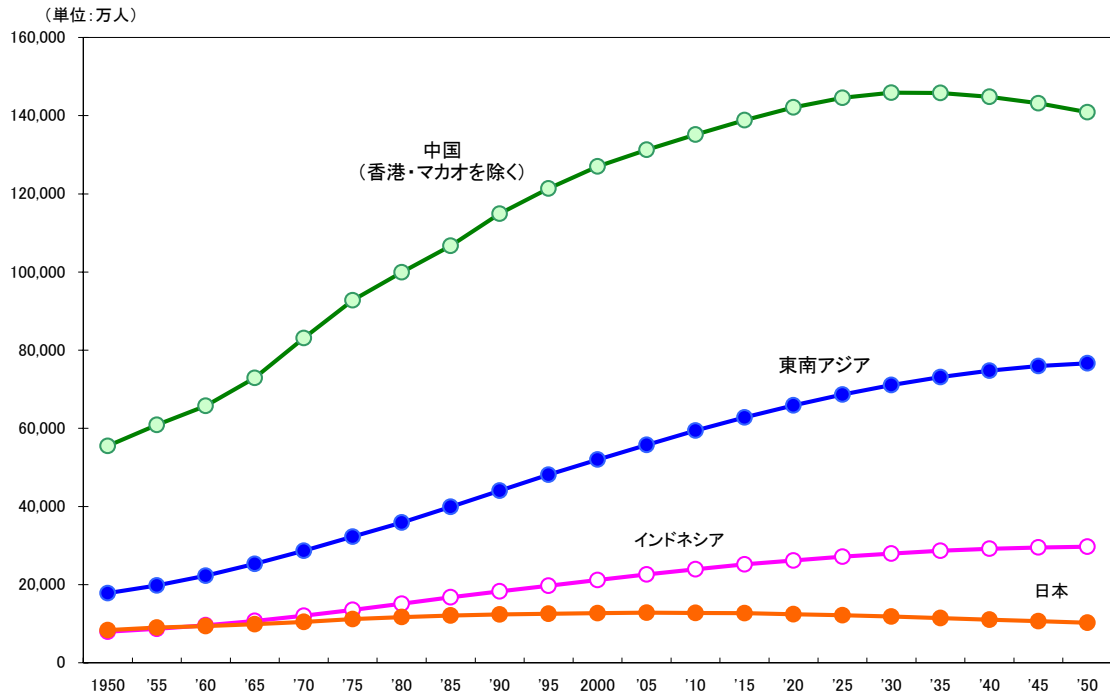
	1950	'60	'70	'80	'90	2000	'10	'20	'30	'40	'50
東南アジア	17,815	22,313	28,676	35,911	44,057	52,000	59,422	65,859	71,060	74,725	76,661
インドネシア	7,954	9,593	12,053	15,111	18,285	21,169	23,960	26,187	27,967	29,206	29,689
マレーシア	611	814	1,085	1,376	1,810	2,327	2,792	3,202	3,527	3,782	3,963
フィリピン	2,000	2,705	3,655	4,809	6,123	7,621	9,300	10,875	12,239	13,286	14,047
シンガポール	102	163	208	242	302	402	459	497	520	520	503
タイ	2,061	2,765	3,725	4,681	5,429	6,067	6,513	6,799	6,922	6,894	6,738
東チモール	43	50	60	58	74	82	127	175	228	286	346
ミャンマー	1,716	2,107	2,638	3,329	4,015	4,588	5,005	5,378	5,668	5,833	5,871
カンボジア	435	543	694	675	970	1,278	1,522	1,810	2,076	2,309	2,511
ラオス	152	199	255	310	408	522	617	722	814	880	929
ブルネイ	5	8	13	19	26	33	41	49	56	63	68
ベトナム	2,737	3,365	4,290	5,301	6,617	7,909	9,085	10,166	11,043	11,668	11,997
中国	55,476	65,749	83,068	99,888	114,907	126,996	135,151	142,126	145,842	144,836	140,885
香港	197	308	394	504	570	666	742	804	853	885	898
マカオ	19	17	25	25	37	44	49	52	54	54	52
北朝鮮	974	1,095	1,425	1,724	2,014	2,295	2,402	2,484	2,543	2,522	2,467
韓国	1,886	2,500	3,192	3,812	4,287	4,678	4,867	4,922	4,841	4,596	4,233
日本	8,363	9,410	10,433	11,681	12,354	12,703	12,776	12,449	11,825	11,065	10,251
計	84,729	101,391	127,213	153,545	178,227	199,382	215,408	228,696	237,020	238,682	235,447
参考)台湾	798	1,121	1,460	1,785	2,028	2,218	2,302	2,321	2,298	2,189	2,016
参考)世界人口	253,509	303,193	369,868	445,147	529,488	612,412	690,656	766,709	831,771	882,355	919,129

資料: 台湾以外は、Population Division of the Department of Economic and Social Affairs of the United Nations Secretariat, World Population Prospects: The 2006 Revision and World Urbanization Prospects

台湾は、U.S. Census Bureau, International Data Base.

- 注: ・21世紀前半(2000年～2050年)は東南アジア、東アジアは全体として人口増が続いている
 ・インドネシアは人口増加が大きく、3億人に近づく
 ・日本は2005年をピークに人口減少期に入っている
 ・中国(香港・マカオを含む)は一人っ子政策の影響で2030年14.7億人をピークに人口減少期に向かう

東南アジア・東アジアの人口実績と将来推計人口



資料: 台湾以外は、Population Division of the Department of Economic and Social Affairs of the United Nations Secretariat, World Population Prospects: The 2006 Revision and World Urbanization Prospects
台湾は、U.S. Census Bureau, International Data Base.

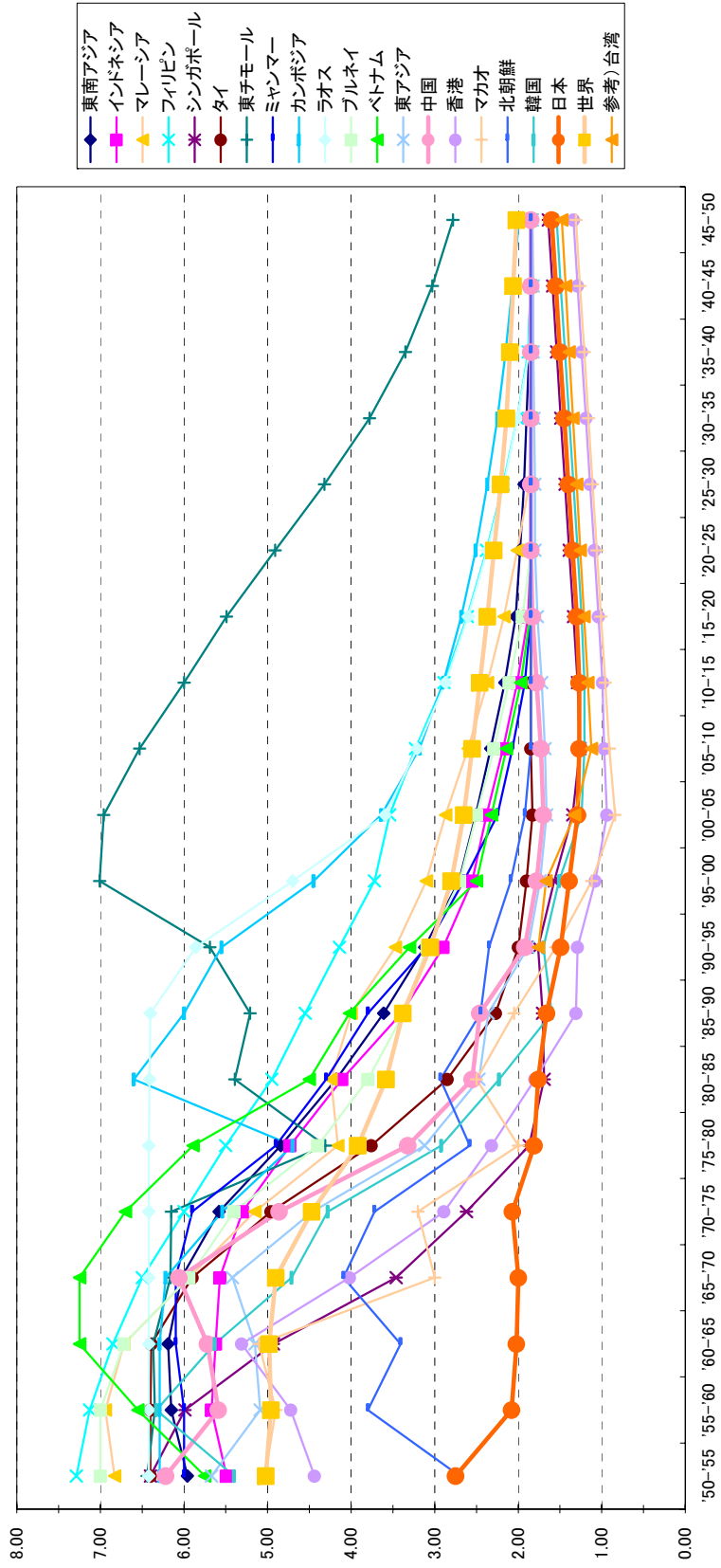
東南アジア・東アジアの合計特殊出生率（2010年以降は推計）

	1950 ～55	'55 ～'60	'60 ～'65	'65 ～'70	'70 ～'75	'75 ～'80	'80 ～'85	'85 ～'90	'90 ～'95	'95 ～2000	2000 ～05	'05 ～'10	'10 ～'15	'15 ～'20	'20 ～'25	'25 ～'30	'30 ～'35	'35 ～'40	'40 ～'45	'45 ～'50
東南アジア	5.96	6.15	6.19	6.03	5.58	4.84	4.18	3.61	3.12	2.71	2.51	2.33	2.16	2.03	1.98	1.93	1.90	1.87	1.86	1.85
インドネシア	5.49	5.67	5.62	5.57	5.30	4.73	4.11	3.40	2.90	2.55	2.38	2.18	2.01	1.88	1.85	1.85	1.85	1.85	1.85	1.85
マレーシア	6.83	6.94	6.72	5.94	5.15	4.16	4.24	4.00	3.47	3.10	2.87	2.60	2.37	2.17	2.01	1.87	1.85	1.85	1.85	1.85
フィリピン	7.29	7.13	6.85	6.50	6.00	5.50	4.95	4.55	4.14	3.72	3.54	3.23	2.89	2.61	2.38	2.18	2.01	1.88	1.85	1.85
シンガポール	6.40	5.99	4.93	3.46	2.62	1.87	1.69	1.71	1.76	1.57	1.35	1.26	1.29	1.34	1.39	1.44	1.49	1.54	1.59	1.64
タイ	6.40	6.40	6.39	5.90	4.96	3.76	2.85	2.27	2.00	1.90	1.83	1.85	1.85	1.85	1.85	1.85	1.85	1.85	1.85	1.85
東チモール	6.44	6.35	6.37	6.16	6.15	4.31	5.39	5.21	5.69	7.01	6.96	6.53	6.00	5.49	4.91	4.32	3.78	3.35	3.03	2.78
ミャンマー	6.00	6.00	6.10	6.10	5.90	4.90	4.30	3.80	3.10	2.65	2.25	2.07	1.92	1.85	1.85	1.85	1.85	1.85	1.85	1.85
カンボジア	6.29	6.29	6.29	6.22	5.54	4.70	6.60	6.00	5.55	4.45	3.64	3.18	2.90	2.68	2.51	2.37	2.25	2.15	2.07	1.99
ラオス	6.42	6.42	6.42	6.42	6.42	6.42	6.41	6.40	5.86	4.70	3.59	3.21	2.87	2.60	2.37	2.17	2.01	1.87	1.85	1.85
ブルネイ	7.00	7.00	6.72	5.94	5.40	4.40	3.80	3.37	3.09	2.70	2.50	2.29	2.11	1.95	1.85	1.85	1.85	1.85	1.85	1.85
ベトナム	5.75	6.55	7.25	7.25	6.70	5.89	4.50	4.02	3.30	2.50	2.32	2.14	1.97	1.86	1.85	1.85	1.85	1.85	1.85	1.85
東アジア	5.67	5.09	5.15	5.42	4.46	3.12	2.47	2.36	1.88	1.74	1.66	1.68	1.72	1.77	1.80	1.80	1.81	1.82	1.82	1.83
中国	6.22	5.59	5.72	6.06	4.86	3.32	2.55	2.46	1.92	1.78	1.70	1.73	1.78	1.83	1.85	1.85	1.85	1.85	1.85	1.85
香港	4.44	4.72	5.31	4.02	2.89	2.32	1.80	1.31	1.29	1.08	0.94	0.97	0.99	1.04	1.09	1.14	1.19	1.24	1.29	1.34
マカオ	5.03	4.90	5.10	3.00	3.20	2.00	2.50	2.05	1.55	1.12	0.84	0.91	0.96	1.01	1.06	1.11	1.16	1.21	1.26	1.31
北朝鮮	2.70	3.80	3.41	4.09	3.72	2.58	2.93	2.45	2.35	2.09	1.92	1.85	1.85	1.85	1.85	1.85	1.85	1.85	1.85	1.85
韓国	5.40	6.33	5.63	4.71	4.28	2.92	2.23	1.60	1.70	1.51	1.24	1.21	1.21	1.24	1.29	1.34	1.39	1.44	1.49	1.54
日本	2.75	2.08	2.02	2.00	2.07	1.81	1.76	1.66	1.49	1.39	1.29	1.27	1.27	1.30	1.35	1.40	1.45	1.50	1.55	1.60
参考)台湾									1.76	1.67	1.33	1.13	1.17	1.21	1.26	1.30	1.34	1.39	1.43	1.48
参考)世界	5.02	4.96	4.98	4.90	4.47	3.92	3.58	3.38	3.05	2.80	2.65	2.55	2.46	2.37	2.29	2.21	2.14	2.10	2.06	2.02

資料: 台湾以外は、Population Division of the Department of Economic and Social Affairs of the United Nations Secretariat, World Population Prospects: The 2006 Revision and World Urbanization Prospects
台湾は、U.S. Census Bureau, International Data Base.

注: 東南アジア、東アジア諸国の合計特殊出生率は、どのような理由によっても、全ての国で2050年頃から 下りはじめ2.0に近づく

東アジア・東南アジアの合計特殊出生率の実績と推計



資料: 台湾以外は、Population Division of the Department of Economic and Social Affairs of the United Nations Secretariat, World Population Prospects: The 2006 Revision and World
台湾は、U.S. Census Bureau, International Data Base.